



都市型屋上貸し農園と融合したビル緑化ビジネス



- ビルの屋上を利用して都市型市民農園ビジネスを展開
- 農園を利用したガーデニング提案により新規顧客を獲得
- 農園利用者への栽培指導により収入アップ



シナリオ

- ヒートアイランド現象への対策として、都市部における緑化推進には大きな期待が寄せられているが、市場の開発は進んでいない。
- 都市部の緑化推進としてのビルの屋上緑化は、冷却効果のほか、遮熱による省エネ効果、紫外線を遮断することによる建物の劣化軽減、そこで働く人に与える癒し効果など様々な効果が期待されている。
- そこで、ビル緑化ビジネスを営んでいた園芸業者が農業者と連携して、ビルの屋上緑化に「貸し農園」を融合するビジネスモデルを構築することとなった。
- 貸し農園は、そのビルや近隣で働く人をターゲットとし、農業者は、栽培指導・栽培代行を行い、園芸業者は、貸し農園の一部を利用して、ガーデニングを提案し、新たな顧客の獲得を目指す。

役割

農業者

- 栽培ノウハウを活かし、農園の借り主に対して栽培指導、農作業サポートを行う。
- 農園の借り主向けの苗の生産を行う。

園芸業者

- 既取引のあるビルオーナーや不動産会社に対し、屋上緑化と融合した貸し農園ビジネスを提案（賃料収入メリット）する。
- 貸し農園の運営・管理を行うほか、園芸事業で培ったノウハウを活かし、ガーデニングの提案を行う。

効果

農業者

- 農園の借り主に対する栽培指導・農作業サポート・苗の販売による収入により農業所得が向上する。

園芸業者

- 貸し農園の運営・管理収入、ガーデニングの提案による指導料収入により売上げが向上する。
- 都市型屋上緑化ビジネスに付加価値を付けることで、事業の多角化を実現し、新たな顧客の創造が期待できる。

Column

屋上緑化について

- 近年、都市におけるヒートアイランド現象の緩和や、美しい都市空間形成の観点から、屋上緑化、壁面緑化が広く行われるようになってきている。平成21年中に少なくとも約27.9haの屋上緑化、同じく約6.4haの壁面緑化が新たに整備されている。